

令和2年 第2回総務経済常任委員会会議録

令和2年2月26日 第1委員会室

○事 件

町長報告事項

- (1) 旧泊川へき地保育所の売払いについて（地域振興課）
- (2) ドクターヘリ離発着場兼訓練場の整備計画変更について（消防本部・建設課）
- (3) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会への職員派遣について（総務課）

○出席委員（6名）

委員長	三 澤 公 雄 君	副委員長	牧 野 仁 君
	横 田 喜世志 君		大久保 建 一 君
	田 中 裕 君		宮 本 雅 晴 君

○欠席委員（0名）

○出席委員外議員（1名）

議長 能登谷 正 人 君

○出席説明員（11名）

地域振興課長	野 口 義 人 君	まちづくり推進係長	佐々木 直 樹 君
消防長	大 淵 聡 君	次長	伊丸岡 徹 君
庶務課長	高 橋 朗 君	建設課長	鈴 木 敏 秋 君
土木技術主幹	藤 田 好 彦 君	管理係長	作 田 知 宣 君
建築係主任	安 藤 巧 君	総務課長	三 澤 聡 君
総務課長補佐	相 木 英 典 君		

○出席事務局職員

事務局長	井 口 貴 光 君	事務局次長	成 田 真 介 君
------	-----------	-------	-----------

[開会 午前 11 時 32 分]

【地域振興課職員入室】

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（三澤公雄君） それでは全協に引き続き常任委員会を始めます。

第2回総務経済常任委員会をはじめます。挨拶は割愛させていただきます、早速事件に入らせていただきます。

◎ 所管課報告事項

○委員長（三澤公雄君） 旧泊川僻地保育所の売払いについて地域振興課からお願いいたします。

○地域振興課長（野口義人君） 委員長。地域振興課長。

○委員長（三澤公雄君） 地域振興課長。

○地域振興課長（野口義人君） それでは熊石地域の方の普通財産売り払いについて係長の方から説明させますのでよろしくをお願いいたします

○まちづくり推進係長（佐々木直樹君） 委員長。まちづくり推進係長。

○委員長（三澤公雄君） まちづくり推進係長。

○まちづくり推進係長（佐々木直樹君） それでは、旧泊川へき地保育所の売払いについて、売払いの経緯と施設の概要。そしてその価格の設定方法、最後に売り払いのスケジュール、この3点について説明させていただきます。

はじめに売払いの経緯と概要について説明させていただきます。資料の1枚目をご覧ください。この施設につきましては昭和57年度に泊川へき地保育所として旧泊川小学校の隣接地、住所で言いますと、熊石泊川町236番地19に建設されたもので、建物の延べ床面積は161.95㎡、木造亜鉛メッキ鋼板ぶき平屋建て、土地の面積は363.42㎡でございます。熊石地域の保育園につきましては現在熊石保育園と相沼保育園の二つの保育園が設置されており、来年度から新たに建設された、くまいし保育園一つに統合されることで進められておりますが、旧町の昭和50年代には、関内、鮎川、泊川地区にもへき地保育所が設置されておりました。関内、鮎川については平成12年に熊石保育園に統合、泊川へき地保育所については平成20年度に相沼保育園に統合され、その後は用途廃止され利用されておりましたが、この度地域の住民から販売してほしいと申し出があったことから入札方式により公売することとしたものでございます。

続きまして予定価格の設定方法について説明させていただきます。基本的には昨年度売払いを行った熊石折戸町の教員住宅の価格設定と同様としております。まず建物の価格ですが建物の減価償却から算出した残存価格（A）ですけれども、こちらは130万1,500円これにかかる解体費用（B）こちらが280万5千円、これを差し引きしまして建物分としましては実質価格はなしとなります。土地の価格については近隣で売買実例がないことから固定資産評価額1㎡あたり2,730円、それでこちらを基本としまして面積の363.42㎡をかけま

して土地の価格（D）こちらは99万2,136円、その合計、建物の部分はゼロで土地の分と合わせまして1,000円未満を端数処理した99万2千円。こちらを最低公売価格と考えております。

最後に販売までの今後のスケジュールでございますが、3月20日配布の熊石総合支所だより、こちらで売払いの周知を行いまして、4月7日に事前説明会、4月15日に一般競争入札と考えております。また入札参加の条件については記載のとおりでございますが、事前説明会の参加者、町税などに未納のない方、売買代金の納入を20日以内という条件を設定を予定をしております。以上で説明を終わります。よろしく願いいたします。

○委員長（三澤公雄君） 説明が終わりました。委員の皆さんから何か質疑ご意見ありませんか。

○委員（横田喜世志君） はい。

○委員長（三澤公雄君） はい。横田委員。

○委員（横田喜世志君） 何年前だったかな。例えば2年3年前くらいだったかな。要は自治体が持ってる物件の売払いでマイナス物件って話を前に新聞にも載ってたし、そういう報道もされたこともあったんですけど、これだと建物分でマイナス150万になりますよね。それで土地分が99万ありますという話で、要は99万っていうのは固定資産評価額なんだけど、そのマイナス分を建物の解体費のマイナス分をそこから引いたりとかって考えはなかったんだろうか。

○地域振興課長（野口義人君） 委員長。地域振興課長。

○委員長（三澤公雄君） 地域振興課長。

○地域振興課長（野口義人君） 内部的にもですね、今、横田委員説明のとおり、マイナス価格での販売という事例も押さえてはありました。ただですね、昨年度教職員住宅の売払いの際にもですね、いろいろ協議した中で内部的にも固定資産の価格を土地代を全体的に落とすわけにはいかないということでございますので、やっぱり土地代相当額で設定すべきということで内部的には結論出したところなので、どうしても土地代についてはですね、ここで下げることによって全体の固定資産税、3年に1回の評価替えでですね、必ずその金額が基準となってですね、落ちることがあればですね、固定資産の収入が全体的に町税の収入に結びつくということでございますので、とりあえず土地代については今までどおりの取り扱いで面積に沿った近場の単価をかけた中での金額設定ということで固めさせていただきました。

○委員（横田喜世志君） はい。

○委員長（三澤公雄君） はい。横田委員。

○委員（横田喜世志君） 去年のね、教員住宅だって1戸売れなくて、壊してるわけだよね。

○地域振興課長（野口義人君） 委員長。地域振興課長。

○委員長（三澤公雄君） 地域振興課長。

○地域振興課長（野口義人君） 去年は全部売れました。3件一応売り払いして、3件とも売れています。

○委員（横田喜世志君） はい。

○委員長（三澤公雄君） はい。横田委員。

- 委員（横田喜世志君） 手に入れた人が壊したってこと？
- 地域振興課長（野口義人君） 委員長。地域振興課長。
- 委員長（三澤公雄君） 地域振興課長。
- 地域振興課長（野口義人君） いや、うちのほうで売り払いしたのは3件ございまして、3件無事に。
- 委員（横田喜世志君） はい。
- 委員長（三澤公雄君） はい。横田委員。
- 委員（横田喜世志君） 3戸あって、2戸はそのまま住んでる人いるけど、1戸は取り壊したように見えたんだけど、俺の勘違いかな。
- 地域振興課長（野口義人君） 委員長。地域振興課長。
- 委員長（三澤公雄君） 地域振興課長。
- 地域振興課長（野口義人君） 令和元年度の予算で手前の方の物件確かに教職員住宅で40年代前半の物件2つ、奥のほうにも2つあったので、そこの物件はもう使えない、住めないような状況もあったので、そこは元年度の予算で取り壊しは行っています。ですから去年購買して売り払いした部分は無事3棟3件とも落札に至っております。
- 委員（横田喜世志君） はい。
- 委員長（三澤公雄君） はい。横田委員。
- 委員（横田喜世志君） あの物件も若干こういうこんなに金額いってなかったと私思ってるんだけど、今回マイナス金額、建物の解体費に費用が随分いってるなって思ったりもしてるんだけど、去年の教員住宅の物件でいけばもうちょっと少なかったような気がするんですよね。だからその分を利用したいという、現に人がいるのであれば勘案しなきゃいけないんじゃないかなって思うんです。なおかつ一般競争入札ってしなきゃいけないのかもしれないけども、欲しいっていう人を優先になんとかできるようにするとかって方法も地域のためには必要なかなって思いはあるんですけど。
- 地域振興課長（野口義人君） 委員長。地域振興課長。
- 委員長（三澤公雄君） 地域振興課長。
- 地域振興課長（野口義人君） まずその個人に対しての売り払いなんですけど、基本的に例えば自分の家があって近隣の土地であればですね、その人を優先に売払いの相談がきたらですね、直接売払いは可能なんですけども、やっぱり離れた物件であれば町民の誰しもがもしかしたら欲しいよということもあるので、そこは平等にとりあえず公募したかたちで金額設定をして入札制度で今までも売り払いをしてるということはまずご理解していただきたいと思います。それで面積的に去年の教職員住宅の差額としてやっぱりどうしても面積の大きい部分もございまして。どうしても跳ね返りと、あと当時建設したときの単価等々も建設費の高い部分もあってですね、こういう金額になってますけど、土地代で考えればですね、去年の折戸地区よりはこの泊川地区のほうが安いあたりのセッティングになっている状況でございまして。
- 委員長（三澤公雄君） ちょっといい。聞いててあれって思ったんだけど、これ旧泊川へき地保育所って町のものなんでしょ。
- 地域振興課長（野口義人君） そうですね。現在、普通財産。

- 委員長（三澤公雄君） 固定資産税が欠損なっちゃうみたいな話。
- 地域振興課長（野口義人君） 固定資産は。
- 委員（横田喜世志君） 固定資産だから関係ない。
- 委員長（三澤公雄君） 関係ないでしょ。だから買ってもらわないと実際入ってこないから、そういう意味で横田委員の発言は、買ってもらわないと始まらないんじゃないかっていう前提の意見だったと思うんだけど。
- 地域振興課長（野口義人君） 固定資産でもここで金額を下げることによって、令和3年度に鑑定評価の3か年に一度の見直しなんですよね。ここでの売買実例が土地の相場をすべて崩してしまうということにつながるんですよね。
- 委員長（三澤公雄君） 横田委員が言ってるのは、固定資産税を下げろって言ってないんだよね。固定資産税が99万2,136円のままでもA-Bが150万近くあるから、差し引きすると、そういった金額になるから、固定資産税が3年なくてもこのマイナスをどう表現するか分からないけれども、お金を付けて売るって話なのこれ。
- 委員（横田喜世志君） 単純にやればそうなっちゃうけど、でも加味したほうがいいんじゃないかっていう。
- 9番（三澤公雄君） だからそのことによって購入者がちゃんと翌年、固定資産税を払うっていうかたち。
- 委員（横田喜世志君） 固定資産もそうだし、再利用するなりなんなり。
- 委員長（三澤公雄君） 法人税だとかも発生するからそういったことを促すって意味でまず土地を取得してもらおうって考え方で、購入単価を下げるってことはどうでしょうかって組立てだと思ってるんだよね。そういうことでいけば課長の答弁ちょっと足りなかったと思うので。
- 地域振興課長（野口義人君） 確かにここの売買の価格を下げることによって、この物件だけじゃなくて、泊川全体、もしくは熊石全体、八雲町全体に影響を及ぼす鑑定評価にどうしてもつながってくるんですよね。ですからこの物件を下げることによって、それが売買実例の価格だよということと土地の相場がすべてですね、全体的に下落してしまうということに結びつく状況にもあるんですよね。
- 委員長（三澤公雄君） 土地の売買というのは売買の背景でこういった計算のもとに売買が成立したんですよって背景があればさ、それは土地の単純な売買ではないから影響の仕方っていうのは違うんじゃないのかなって。違うの。
- 地域振興課長（野口義人君） とりあえず売買実例で、契約取り交わしたものを国として根拠として入手をしてですね、それも基準の一つにはなってるんですよね。土地相場の取引ってことで。
- 委員長（三澤公雄君） 土地の背景なんか関係ないのかな。
- 委員（横田喜世志君） はい。
- 委員長（三澤公雄君） はい。横田委員。
- 委員（横田喜世志君） あのね、国で評価してるわけじゃないんだよ。第三機関っていうか、そこがやっているのであってそこだって、去年私も手に入れた土地の報告してるけども、そこだってただ単に土地だけっていうのと、中古の建物物件、有り無しっていうのもちゃん

とやってるわけだよ。それで例えばね、そこで安く手に入れたって振興局から不動産取得税が来るわけだ。そこはね、評価額で税金が来る。だから売買実際の売買なんぼとかが、それが影響するっていうのはね、まずない。

○委員長（三澤公雄君） 横田委員の発言に補強するわけじゃないけど、八雲町なら八雲町でそういったことを鑑定するための地元の不動産とかを指定されてるので、熊石地区にはどういう人がいるかわからないけど、売買の金額の評価っていうのはその不動産、その業者さんにちゃんと情報が入っていれば、課長がおっしゃるような不利益はないんじゃないかなという、横田委員と同じ趣旨の質問です。そういう部分も踏まえて答弁をお願いします。

○地域振興課長（野口義人君） 委員長。地域振興課長。

○委員長（三澤公雄君） 地域振興課長。

○地域振興課長（野口義人君） 地域振興課だけでなく、普通財産の取り扱いは総務課のほうで行っていますし、八雲町全体として今までの価格設定のあり方とか、どうしてもその部分は崩す状況ではないよと。今後ここで金額を下げたことによって熊石だけではなくて全体的に影響が及ぶことになりかねることもあるので、あくまで計算は今までの積算根拠に則って、一応最低金額価格をですね、設定させていただいたってことでございます。

○委員（横田喜世志君） はい。

○委員長（三澤公雄君） はい。横田委員。

○委員（横田喜世志君） これで売ればいいけどさ。現実にね、八雲町側だって処分できない土地っていっぱい持ってる。八雲町側って言い方もおかしいかもしれないけど。そういうね、処分できない土地があるって現実があるわけだ。その中でなぜできないかっていったら、高いんだよ基本的に。

例えば俺の知ってるふざけた物件は寄付を受けた土地に建物が建ってました。建物の除却費を乗せて売却価格にしたんだよ。ただで手に入れた土地に金かけてそれを評価額に乗っけて公募したって、そんなの誰が買うの現実に。これをね例えば自分が買うならどう思うって。これ誰も買わなかったら280万町が出して解体しなきゃなくなるんだよ。それを少しでもって思ったらさ、そこは加味しなきゃないんじゃないかって思うけどな。そうじゃなかったら買う人のメリットっていうか意欲っていうものがなくなるでしょ、現実に。俺だって個人売買してるけど、うちはここまでなら出せるってやり方をする訳だ。それで各々納得すれば決まるわけだよ。だからって固定資産税が安くなるかっていったらならないから。

そしたらそういう物件は、例えばだよ、ここにいないけど黒島さんだってそういうやり方をして、報告して、それで下がってるかっていったら下がってないんだよ。それを一つの、固定資産評価額が下がるなんてね、理由づけにさせるのはどうかなって思うけどな。そこら辺あまりにも、どこの不動産屋の入れ知恵なのか知らないけど、現実を分かってないってことだな。それで事例はあるんだ。その不動産屋さんが入って現実に誰が得する売買になるかって言ったら、不動産屋が得する物件っていうのが多々あるんだよ。不動産が入るがために不動産屋の手数料だけ損するという。だから直接的に一般入札なんだからどう見たってこうやって出してること自体がさ、建物の面積見てそれに自分が例えば平米なんぼかかるって計算すれば壊すのになんぼかかるってだいたいみんな予測つくんだから。そしたらその分どうするんだって感じでされちゃうしょ。その分をどう加味してくれるかっていうとこ

ろで普通は例えば最低公売価格って出なければだよ。そういう値段を付けるんだよ普通。かかる費用、価値、これの計算しかできないんだから普通。

○委員長（三澤公雄君） お諮りします。横田委員の質問に関して課長が持ち合わせてる部分では答弁が足りない部分があると思いますので、このスケジュールでいきますと、まだ定例会中の日程の中の。

○委員（横田喜世志君） 違う違う違う。3月号に載るからもう間に合わない。

○地域振興課長（野口義人君） 先ほどのスケジュールは去年の教職員住宅も、まず先に熊石地域の物件ということで熊石地域に限ってのチラシだったんですよね。それでそこですべて売り払いできたので、今回も3月20日の熊石総合支所だよりで掲載して募集しようかなと思っていましたので、確かにスケジュール的には間に合います。

○委員長（三澤公雄君） その部分はね、資産評価が下がるっていう課長答弁に対して、いやそんなことないって言っても、それに対してのまた再反論の部分で野口課長、財務だとかそういう部分で、より見識のある方の補強をされた方がしっかり答弁できると思うので、1回持ち帰ってはどうか。

○地域振興課長（野口義人君） 委員長。もう一回いいですか。

○委員長（三澤公雄君） 地域振興課長。

○地域振興課長（野口義人君） 去年、教職員住宅を一応売り払いして横田委員のほうからもね、3棟、3件ありましたよ。それで実際その予定価格、最低価格の設定も同じ積算根拠で金額設定してるので、1件当たり118万5千円とか、211万3千円とか239万3千円。その金額ですべて確かに落札はできたという経過もあるので、例えばそこで売払い出来なかったよとかそういう要素があれば今回特例的に例えば今言った通り下げるとかそういう踏み込みを考えてたんですけども、今回は去年の参考例を見た中では、結果すべて落札できてるということなので、町としては現状の積算根拠に則って、まずは募集して売払いしたいという意向なんですよね。

○9番（三澤公雄君） という答弁に対しまして、何かありますが。横田委員。

○委員（横田喜世志君） いやいや、やりたいんだったらやればいいしょ。

○委員長（三澤公雄君） そういう締め方したら質問した意味がないじゃない。今まで議論したのに。

○委員（横田喜世志君） だって変える気ないもの。どうすれってさ。

○委員長（三澤公雄君） そういう議事進行はしてないつもりなんだけど。

○委員（横田喜世志君） だって今の答弁だって相談するとは。一切持ち帰るっていう答弁もないし。

○委員長（三澤公雄君） だから課長の答弁を僕なりに訳すと、前回も同じような計算式でも売れたんだと。横田委員は売れない心配をしてお意見をおっしゃったと思うけど、売れたという実績を基にして今回も提案してるんでどうでしょうかって。

○地域振興課長（野口義人君） 地元の住民としては去年、教職員住宅を売り払いしたある程度結果とかそういう情報も多分入手してると思うので、町としての金額設定のあり方というのはある程度覚えているのかなと思っていますので、同様の売払いを多分求めてるわけではないんですけど。

- 委員長（三澤公雄君） 町有財産だから不必要なダンピングは必要ないし、これで売れるという目算で設定したんですよってという意見なんです。横田委員。
- 委員（横田喜世志君） だからそう思ってるならやればいしょって。
- 委員長（三澤公雄君） はい。わかりました。
- 委員（田中 裕君） したら今までの議論なんだったの。
- 委員長（三澤公雄君） なんだったんだろうね。はい。そういうことで、担当課としては、この金額で売るという算段で進めると。はい。報告を承りました。

【地域振興課職員退室】

【消防本部・建設課職員入室】

- 委員長（三澤公雄君） それでは次の事案に移ります。ドクターヘリ離発着場兼訓練場の整備計画変更について、消防本部及び建設課から報告をお願いします。
- 建設課長（鈴木敏秋君） 委員長。建設課長。
- 委員長（三澤公雄君） 建設課長。
- 建設課長（鈴木敏秋君） それでは、まずは私の方からこの事業の計画変更の関係について説明したいと思います。

両事業については令和元年6月7日に開催されました、八雲町議会第2回定例会において、補正予算第2号として予算の議決をいただき、事業の執行に関しては、学校給食センターの本体、建築工事分については、令和元年7月24日に入札を行い、8月8日開催の第4回臨時会においてその契約締結について議決をいただき、これまで順調に施行してきたところであります。しかしながら他の工事、土木工事についても順次執行する計画でありましたけれども、検討の結果、建築主体工事に外構工事分等を加えて施工することが適当であるという判断に至ったため、計画を変更することとしましたので、本日皆様方にご説明し、ご理解を得たいというところであります。

その判断に至った理由等でございますが、本事業土木関係工事については、当初、別紙の横長の表を見ていただきたいのですが、上が今の考え方、下が変更後の考え方ですけれども、土木関係工事についてはですね、当初給食センター本体にかかる外構などの土木工事については、庁舎の建築主体工事とは別個にですね、消防のドクターヘリポート含め、一括、土木工事として、令和元年の秋に令和2年度にわたっての2か年工事として発注して1年次目においては路盤工などを施行して、2年目に舗装まで含めて完成させようという計画でありました。

しかしながら建築主体工事発注後、検討を重ねた結果ですね、施設本体周辺に大型クレーン等ですね、相当な期間を配置して、工事を行わなければならないということ。これは業者との協議でありますけれども、そういうようなこと。それと、工期を考慮して、効率的な工事施工を図るという意味でいえばですね、現場事務所、資材置き場、残土仮置き場などの用地については、業者側でも探した中では、なかなか周辺に適当な土地が確保できないということなどから、ドクターヘリの整備用地を使用せざるを得ないというふうに判断せざるを得なかったというようなことがありまして、土木工事がある程度建築主体工事の終了後に

施工するというようなことが、逆に円滑な工事施工、工事の品質確保の観点から良いのではないかというふうに判断したところです。そういうことから建築主体工事に給食センターエリア分に係る土木工事については、一体として施工すべきだということでありませう。

そのようなことから建築主体工事に設計変更として、そのエリア分の土木工事を追加するというものであります。この追加にかかってはですね、現行の契約金額が7億3,040万円でありませうが、これを7億6,598万5千円、3,558万5千円の増額の変更としたいというものであります。工期については土木工事の追加になることから建築主体が6月29日までありますが、これを7月31日までの32日間の延長としたいということでありませう。なお電気設備、機械設備についてはこれらとは関係ありませんので現状では設計変更は必要ないものとなっているところでありませう。

この工事請負額の変更、締結についてはですね、3月開催予定の第1回定例会において議事に上程予定でありますので、ご理解のほどよろしくお願ひしたいというところでありませう。一方、消防ヘリポート区域側の工事については、現状先度言いましたけれども、現場事務所なり資材置き場等に使われておりますので、それが終了した後ということでありませうので、令和2年度の工事として改めて計画したというところでありませう。これらにともなうて予算の配置が変えることとなりますので、それについては消防本部の方からご説明いたします。なお、学校給食センターの関係でありますので、先ほど文教厚生常任委員会のほうにですね、同じ旨をですね、報告しご理解を賜ったというところでありませう。以上でありませう。

○消防本部庶務課長（高橋朗君） 委員長。消防本部庶務課長。

○委員長（三澤公雄君） 消防本部課長。

○消防本部庶務課長（高橋朗君） ドクターヘリの離発着場及び訓練場の整備計画の変更についてご説明いたします。ドクターヘリの離発着場兼訓練場の整備につきましては本年度と令和2年度の2か年で整備して、昨年6月定例会におきまして補正予算で外構工事分1,414万8千円を議決いただき、令和2年度当初予算で1,496万3千円を計上する予定でありませう。ただいま建設課長のほうから。

○委員長（三澤公雄君） 課長。せっかく建設課長がさ、説明して皆理解したんだから、変更後の部分消防説明すればいいんじゃないかなと思うんだけど。今喋ってるの前段の部分でもう既に建設課長のほうから報告を受けてなるほどと理解したので、そしたらヘリの部分で変更になったしよ。その新しくなった変更というか、その部分だけの説明で。

○消防本部庶務課長（高橋朗君） 委員長。予算の関係でちょっと説明させていただきます。それで今年度はドクターヘリの工事はできなくなったということです。それで補正予算で議決いただきました、1,414万8千円は3月定例会で減額補正をさせていただきますして、外構工事分の2,604万8千円を令和2年度当初予算で計上させていただきますのでよろしくご理解のほどお願ひいたします。以上でありませう。

○委員長（三澤公雄君） すみませうね。我慢が足りなかったみたいで。はい。委員の皆さん何かありませんか。

○委員（横田喜世志君） 給食センターのほうで聞いたらまずいのか。

○委員長（三澤公雄君） いや、そんなことないでしよ。

- 委員（横田喜世志君） じゃあ、はい。
- 委員長（三澤公雄君） 横田委員。
- 委員（横田喜世志君） これ見て給食センターの改築のほうのね、3,500万増しっていう変更されてるんだけど、設計変更ということなんだろうけど、これはそのヘリポートのほうに関わってそういうふうになったのか、単体の給食センターだけの話なんですか。
- 建設課長（鈴木敏秋君） 委員長。建設課長。
- 委員長（三澤公雄君） 建設課長。
- 建設課長（鈴木敏秋君） 今の工事請負額の3,558万5千円の増加の分でありますけれども、これはあくまでも給食センター側の土木工事を追加発注するということですので、消防のドクターヘリのヘリポートの関係の工事はあくまでも含まれません。あくまでも給食センター側の工事費でありますので、当初から土木工事として一体として発注しようという考え方でありましたけれども、この3,500万相当は給食センター側の工事費の内数として数えていたものでありますので、今までの予算にプラスするということではなく、予算計上してる中の内数がたまたま発注の仕方を変えて工事請負額としてプラスするということであると。要するにこの3,500万相当は土木工事だけでありますので、もともと当然給食センター側の予算の中に入っていたものということで押さえていただきたいというふうに思います。
- 委員（横田喜世志君） はい。
- 委員長（三澤公雄君） 横田委員。
- 委員（横田喜世志君） ということは上の表と見比べた時に建築主体で7億3千万になっていて、その中では別に設けてるふうには書いてないんだよね。その例えば外構工事なんぼとかって。でもそれを内数だったという今の表現だよ。そこらへんちょっとわかりづらいんですけども。
- 建設課長（鈴木敏秋君） 委員長。建設課長。
- 委員長（三澤公雄君） 建設課長。
- 建設課長（鈴木敏秋君） 表の作り方としてちょっと親切でなかったのかなと思うんですけども、あくまでも工事発注状況というところで、建築主体が7億3,040万という形で書いております。それで工事の発注部分だけを足すと、今ちょっと電卓がないんですが12億弱になると思います。ところが予算は13億5,700万になっております。でするのでその差額ってというのが何かというと一番大きいのは給食センター側にある土木工事の工事費の分です。そういうふうにお考えいただければわかるのかなと。だから3,500万相当がこれは降ってわいた訳じゃなくて、もともと給食センター側の工事として考えていたんですけども、まだ発注はしていなかったものですから、ちょっとわかりづらい表になってますけれども、あくまでも予定していたものの内数でもって、それを工事の施工の仕方として建築主体工事のほうに追加して施工するという計画に変えたということでもあります。
- 委員長（三澤公雄君） いいですか。はい。ほかに。なければ終わります。ありがとうございました。

【消防本部・建設課職員退室】

【総務課職員入室】

○委員長（三澤公雄君） 続きまして、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会への職員派遣について総務課から報告をお願いします。

○総務課長（三澤 聡君） 委員長。総務課長。

○委員長（三澤公雄君） 総務課長。

○総務課長（三澤 聡君） 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会への職員派遣についてということで、東京オリンピック・パラリンピックのマラソンと競歩の種目が札幌で開催されるということがありましてですね、札幌の現地でそういう運営委員会、組織委員会を現在立ち上げております。その組織委員会からですね、職員の派遣要請というのをごさいます、それに八雲町として職員を派遣するということになりましたので、そのことについて補佐のほうから説明をさせますのでよろしくをお願いします。

○総務課長補佐（相木英典君） 委員長。課長補佐。

○委員長（三澤公雄君） 補佐。

○総務課長補佐（相木英典君） 私のほうから今申しあげました派遣についてご説明申し上げます。

資料をお開き願います。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会へ、次のとおり八雲町職員を派遣することとなりましたので、ご報告いたします。1、派遣先であります。公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会札幌大通公園会場運営本部であります。2、派遣職員は、体育課 川道裕次 25歳であります。3、派遣期間は、令和2年4月1日から令和2年9月30日までとしております。4、業務内容ですけれども、行政調整、沿道等地元調整、記載のとおり業務内容となっておりますけれども、派遣職員がこのうちのですね、どの業務にあたるかについてはまだ決定しておりません。5、その他であります、他の自治体の派遣状況であります。北海道4名、道警2名、札幌市13名、小樽市1名、千歳市1名、深川市1名、芽室町1名ということで決定しているところがあります。そのほか、組織委員会から数名、そして民間の警備会社からもその組織委員会に加わって、組織としてはほしい40名くらいの組織になるということでございます。

以上私のほうからご報告申し上げます。よろしくお願いたします。

○委員長（三澤公雄君） 報告が終わりました。委員の皆さんからご発言ご意見ありませんか。

○委員（横田喜世志君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 横田委員。

○委員（横田喜世志君） 町職員の派遣を要請されたって解釈でいいのかな。

○総務課長補佐（相木英典君） 委員長。課長補佐。

○委員長（三澤公雄君） 課長補佐。

○総務課長補佐（相木英典君） 12月10日に道の生活部長からですね、各市町村宛にですね、職員派遣についての依頼がありました。それに基づいてこちらのほうとして、職員をですね、町長協議のうへ職員の派遣を希望いたしまして、そして1月31日にですね、派遣を決定されたというところがございます。決定の通知がきたというところがございます。

- 委員長（三澤公雄君） 各市町村に誰かお手伝いしてくれる町がありませんかって道から呼びかけられたんだよね。それで、はい八雲町行きますって手を挙げたんだよね。
- 総務課長補佐（相木英典君） はい。課長補佐。
- 委員長（三澤公雄君） 課長補佐。
- 総務課長補佐（相木英典君） 今、この資料に記載されている派遣状況のほかにも10くらいの市町村からの依頼があったみたいですが、それは派遣決定は受けなかったと、ここに書いている自治体のみ派遣が決定されたというところでございます。
- 委員長（三澤公雄君） 希望したのにボツになったの。
- 総務課長補佐（相木英典君） 組織委員会のほうで、そんなに必要ないでしょということだったみたいですが。
- 委員長（三澤公雄君） 面白いね。ほかに。
- 委員（横田喜世志君） はい。
- 委員長（三澤公雄君） 横田委員。
- 委員（横田喜世志君） 要は、職員の費用は向こう持ち。
- 総務課長補佐（相木英典君） 課長補佐。
- 委員長（三澤公雄君） 課長補佐。
- 総務課長補佐（相木英典君） これは派遣に基づいては組織委員会と町とで協定を結びます。派遣経費については研修派遣ということの大名目ということでありますので、経費についてはすべてこちらで。ただし、組織委員会としての出張旅費については当然組織委員会のほうで持ちますけれども、その他の経費についてはこちらということで。
- 委員長（三澤公雄君） ほかに。わかりました。以上です。ありがとうございました。

【総務課職員退室】

◎ その他

- 委員長（三澤公雄君） はい。以上で用意していた案件は終わりました。その他、何か皆さんのほうからありませんか。
- 委員（田中 裕君） はい。
- 委員長（三澤公雄君） 田中委員。
- 委員（田中 裕君） 今回、道外研修、議会費で盛り込まれたんだけど、本来ですと予算、行先とかそういうところきちっとしてから肉付けして予算措置するんだけど、今回の方は上のほうから逆にボンときたもんだから、正副委員長でどこかそろそろ考えておかないと。
- 委員長（三澤公雄君） 僕も見ながら思ったんだけど、あれはあれとして大事にしてさ、あと常任委員会の視察で積み立てたものと合わせてより有意義な場所に行くって考え方はどうかってことだよ。だからもっと八雲町議会全体で考えるなら、文厚とも協議してとか、庁舎のほうだったら、庁舎特別委員会の中でも考えれば。要は何を研修したいか、どこに行きたいかってことですね。正副で考えてみます。
- 委員（田中 裕君） 文厚とも相談しながら。

○委員長（三澤公雄君）　そうですね。実りある有効な財源の使い方を。是非皆様のほうからも、ここぞというところを推薦いただければ非常に助かりますので。ほかにありませんか。

○委員（横田喜世志君）　はい。

○委員長（三澤公雄君）　はい。

○委員（横田喜世志君）　今のその件でさ、何日か前に南海地震だっけか。地震の予測が新しくまた出てるよね。それに例えば防災だとかの関連でどう考えて対処するべきかっていう中で、また最初に戻ったような話しをしてる人たちもいるわけだっけ。例えば東日本大震災の後にね、無駄に堤防高くしてっていう話も出てるし、だからこうやって地震の予測だの被害予測なんか出してどうすれっていうのっていうのよって話まで言ってるわけだっけ。それで現実には八雲はそんな経験がほとんど少ないから、あんまり皆考えてないかもしれないけど、熊石側は経験してるわけだしそれに対して本来というのが町民のために要は無駄な経費をかけずに人命を守れるのかって、そこの基本の考え方っていうのがないと、あれやこれやって言って終わりってパターンになるし、以前にも避難路だとか見に行ったこともあるんだけど、それに対してだって、いろいろな話も出てて、現実にはそれこそ単管供給して終わりみたいな話に持って落ち着いちゃったりとかしてるので、本来、だからこの間のね、相沼小学校云々って話にも関わってくるんだと思うんだよね。

基本的な考え方がどうあるべきかというのを考えると。だからそこら辺をもっとしっかりうちらも勉強していかないとないのかなって今更ながらもさ、個人的にはいろいろな思いもあるし、防災については前にも三澤さんも避難ポートみたいのものもあるしっていう、そういうやっぱりどうしたら一番効率が良く、なおかつ人命を守れるかっていうところを、うちらしんえんだから勉強しないとないんじゃないかなっていうのもこの頃思ってるんだけど。

○委員長（三澤公雄君）　所管の案件だし、やはりそのところは別に皆さんの方から例えば具体的にどこそこでこんな研修があるよだとか、ちょっと面白い講師が見つかったよだとか、そういうことは随時僕は拾っていきたいと思いますので、研修視察だけに視察行くだけじゃなくて広く是非そういう知見は深めていきたいなと思いますので、どうぞ横田委員の方でも一緒に考えようよっていう舞台設定だとか、僕自身も積極的に考えていこうと思ってますけども、是非、文厚よりも総務ってフットワークいいねって評価されるように皆さんで頑張りましょう。どうもありがとうございました。

[閉会 午後 0時21分]